

お住まいの
市区町村から
検査費用の助成が
あります！

多くの市区町村では、40歳以上の方に検査費用の助成があります。

大腸がん検診（便検査）は、助成がない場合、4千円程度かかる検査です。
ぜひこの機会に受診してください。

例年、受診期限が近付くと大変混み合います。
お早めにご予約・ご受診ください。

大腸がん検診を受けるには

0. 市区町村からの案内や、市区町村ホームページで確認する

- ・今年度の助成対象かどうか、検査費用
- ・受診できる医療機関、日程、時間 など

1. 受診場所を選ぶ

2. 医療機関に検査容器と問診票を取りに行く
（事前に送付される場合もあります）

3. 自宅で便を2日間採取

4. 検査容器と問診票を医療機関に提出

5. 検査の結果※

約2～3週間程で結果が出ます。
検査結果を確認してください。
「要精密検査」という結果が出た場合は、
必ず医療機関で精密検査を受けてください。

精密検査の第一選択は全大腸内視鏡検査です。

※ 検診は自治体と、各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有され、市区町村へと報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は最初に受診した医療機関にも後日、精密検査結果が共有されます。（医療機関の検診精度向上のため）

検診について詳しくは

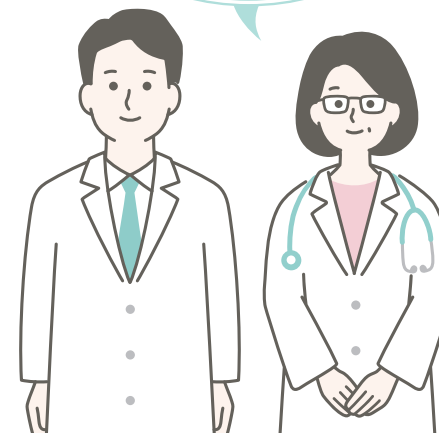
お住まいの市区町村のがん検診担当窓口にお問い合わせいただくか、
市区町村のホームページをご確認ください。

〇〇市 がん検診

Q 検索

大腸がん
検診の
お知らせ

大事な検診、
必ず受けてください



To:

From:



専門医に聞きました。 大腸がんについて、3つのポイント

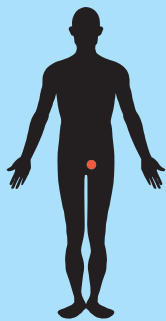
POINT
01

「早く見つけて、 早く治す」

ことが大切。早期のうちに治療すれば
95%以上が治癒します。^{*1}

大腸がんは、早期で発見すれば、多くの場合負担の少ない内視鏡での手術で治療が可能です。入院は2〜3日、または必要ない方もいらっしゃいます。大腸がんの発見と治療は、早ければ早いほど負担は少なく済みます。しかし、進行してがんが肺などに遠隔転移した後に発見すると、生存率は大きく下がってしまいます。

早期発見した場合（I期）



5年相対
生存率 99.1%

早期発見できなかった場合（IV期）



5年相対
生存率 22.9%

※1 ここでいう「治る（＝治癒）」とは、診断時からの5年相対生存率です。相対生存率は、がん以外の原因で亡くなる人の影響を除いた数値です。
出典：全がん協加盟施設における5年生存率（2010～2012年診断例）
このリーフレットは、がん検診受診率向上く希望の虹プロジェクトが作成しました。

POINT
02

「自宅で 簡単にできる」

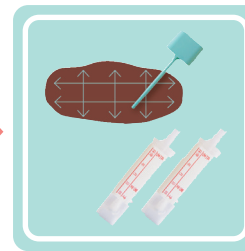
大腸がん検診は便検査^{*2}です。

大腸がん検診は自宅で簡単にできる
便検査です。内視鏡ではないですよ。

「大腸がん検査って、お尻からカメラ入れるやつでしょ」って誤解してる方多いんです。最初の大腸がん検診は自宅で簡単にできる検便です。トイレで便を2日間採取して医療機関に提出するだけ。それで異常が見つかった場合のみ、医療機関で内視鏡の検査をするんですよ。



検査キット



容器のフタについた
棒で便の表面を採取

注）痔の方もお受けください。現在明らかな出血や痛みがある場合は時期をずらして受けることをおすすめしますが、そのような症状がない場合は検査結果にはほぼ影響がありません。

※2 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つからない場合もあります。

POINT
03

ほとんどの大腸がんは 早期のうちは

「自覚症状がありません」

みなさん「血便がでたら」とか
「異常を感じたら」病院に行こうって
おっしゃるんですが、大腸がんは、
早期には自覚症状がないんです。

日本では毎年約15万人が大腸がんにかかり^{*3} 5万人が命を落としています。^{*4} 早期には自覚症状がないので「異常を感じたら」では、手遅れになる場合があります。検診は毎年定期的に受けてください。もちろん、血便、腹痛、便の性状や回数が変化した、などの症状がある場合は次の検診を待たずに病院に行きましょう。

大腸がんが増加しており、
女性の部位別がん死亡数第1位、男性でも
肺がん・胃がんに次いで死亡者数が多いん
です。^{*4} 検診を受けることでがんによる
死亡リスクが減少します。命を守るため、
大腸がん検診を必ず受けてください。



※3 出典：国立がん研究センター
がん情報サービス「最新がん統計」
（全国がん登録、2018年）

※4 出典：国立がん研究センター
がん情報サービス「最新がん統計」
人口動態統計（2019年）